



## 第2章

# 林業における政府の役割<sup>1)</sup>

八田達夫 高田眞

- わが国の森林資源は成熟期（伐期）を迎えており、林業の重要性が増している。その一方、林業を取り巻く状況は非常に厳しく、衰退しつつある。就業者数の減少、高齢化の進展が著しく、高コスト体質にあるため、国内資源が有効に活用されておらず、自給率が低い。
- しかし、他の先進国の例から明らかなように、適切な市場の失敗対策がとられるならば、わが国の林業は高い生産性を上げることができ、十分な国際競争力を持つことができる。
- 一方で、林野庁は、膨大な補助金を林業に対して無益につぎ込む一方、市場の失敗対策として林業政策を構築するという観点を欠き、日本の林業に低い生産性を強いてきた。この袋小路から抜け出すためには、逐次改善策ではなく、抜本的な政策方針の再構築が必要である。
- とりわけ、公共財としての恒常的に使える路網の整備と、林地情報の徹底的な公開を基本とする改革がなされなければならない。